2Aa－2

薩摩藩島津家の食生活

第二報　琉球の食文化の影響としっぽく料理について

元別府大短大　江後迪子

目的　前報に引続き、薩摩藩島津家の食生活に関する記録から、琉球の食文化の影響および江戸時代の鹿児島におけるしっぽく料理について検討した。

方法　島津家文書のうち尚古集成館所蔵の『中城王子磯御屋敷江被召』『日帳抜書』、東京大学史料編纂所所蔵の『重豪公薫父江唐風御料理被下候献立』、さらに『割烹余録』などのしっぽく料理関連の文献および文書を対象とした。

結果および考察　鹿児島藩は、琉球を支配下に置き貿易を行っていたため、国王や使節がよく鹿児島を訪れている。すでに報告した『御献立留』のほか『佐敷王子上国之節献立留』（1692）などには獣肉食が多い。『中城王子磯御屋敷江被召』（1773）の中城王子に対する饗応は、前半が唐風料理、夜食が和風料理である。そして、島津家側からの饗応は日本風のもてなしで、琉球側からの饗応は中国風であった。島津家では琉球との交流により中国風料理を食する機会が多かった。中国風の素材の中でも豚肉を食べる習慣は琉球との交流によって深められていったと考えられる。中国風料理（しっぽく）の調製は琉球の料理人が行っている。また、江戸時代にしっぽく料理を食べた記録は長崎に比べて宝暦年間の鹿児島の島津重豪の係わるものが多く、その内容は本格的中国料理である。また、江戸時代のしっぽく料理の書『新撰卓袱会席趣向帳』『料理通』などは、日本風素材を用いたもので、形式と器のみ中国風のものがある。